

平成26年度第4回横浜市子ども・子育て会議子育て部会 会議録	
日 時	平成26年9月30日（火）18時～20時30分
開催場所	松村ビル本館 マツ・ムラホール
出席者	土谷みち子委員、松岡美子委員、蓑田雅委員、森祐美子委員、柳井健一委員、渡辺克美委員、高田治委員
欠席者	太田恵蔵委員、河原隆子委員、土山由己委員、大山牧子委員
開催形態	公開（傍聴者0人）
議 題	<p>&lt;議題&gt;</p> <p>(1) 地域子ども・子育て支援事業の確保方策について</p> <p>(2) 横浜市子ども・子育て支援事業計画（仮称）の素案（案）について</p>
<p>&lt;議題&gt;</p> <p><b>(1) 地域子ども・子育て支援事業に関する確保方策について</b></p> <p>（松岡委員） 一時預かりについて、保護者の方がリフレッシュできるという面もありますので、実施場所が増えることは非常に良いと思います。ただ預かるお子さんが課題を抱えている場合、預かる側の負担は大きいと思いますので、どのように体制を確保していくかが課題だと思います。</p> <p>（事務局） 一時預かりの運営団体からは、課題を抱えており他の施設では受け入れを断られてしまうお子様でも、かなり受け入れていただいているとも聞いております。これからも運営団体の方からご意見をお聞きしながら引き続き、検討していきたいと思います。</p> <p>（土谷部会長） 皆様の意見を踏まえて、修正・検討が必要なところは内容を事務局と調整した上で部会長に一任ということでよろしいでしょうか。</p> <p>（各委員） 「はい」と声あり</p> <p>（土谷部会長） それではご議論いただいた内容は調整の上、10月16日の子ども・子育て会議の中で報告を行います。</p> <p><b>(2) 横浜市子ども・子育て支援事業計画（仮称）の素案（案）について</b></p> <p>（第1章「横浜市子ども・子育て支援事業計画について」、第2章「横浜市の子ども・青少年や子育て家庭を取り巻く状況と課題」、第3章「横浜市の目指すべき姿と基本的な視点」）</p> <p>（松岡委員） 30ページの「依然として進まぬ仕事と生活の両立」部分についてですが、横浜市は以前から、結婚と同時に仕事を辞めて、それからある程度経過したら就職活動をするという方が多く、その時になかなか以前就いていた仕事に就けないという課題があると思います。「M字カーブ」自体が悪いということではなく、働きたいときに働けるような環境になっていることが大事だと思います。今後は多様な働き方を認めていく等の子育てをしても不利にならないような考え方が大事なのではないかと思います。社会が多様性を認めつつ、その多様な仕事を用意できるかどうかワーク・ライフ・バランスの実現にもつながると思います。</p> <p>（柳井委員） ワーク・ライフ・バランスの観点からも、働き方に色々な選択肢があることは私も賛成ですが、やはり仕事復帰するときの道がどのように確保されているかも大事だと思います。子育て等を理由に仕事を辞めた方々を、面接等を行った上でもう一度雇用するというを行っている企業もあると聞いています。人材を一から育てるよりも、経験のある方を活用したほうが企業にとっても有意義なことが多いことから、そのような視点も大切だと思います。</p> <p>（渡辺委員） 「支援の連続性や一貫性」という部分では、保育園から小学校に進級する時や、小学校から中</p>	

学校に進級する時に途切れない一貫性のある支援が大切ですので、そういった点を事業計画で伝えていただきたいと思います。

(森委員) 保育所の入所要件では週4日以上就労が条件となっていますが、本当は週3日ぐらい子どもを預けて働き、週2日はしっかり子どもと接したいという方も多くいらっしゃると思います。そこで一時保育を活用しながら、新たな働き方・子どもの預け方を提案できると、横浜市は全国に発信する力を持っているので、全国の方々の働きやすさにつながっていくのではないかと思います。

(土谷部会長) 多様な働き方への支援については、男性の育児休業も関係していると思います。3割の男性の方が育児休業を希望しているけれども、実際に取得しているのは1割に満たないというデータもあります。

(菘田委員) 育児休業の取得率が依然として低い水準ではありますが、工夫している企業はありますので、事例を取り上げて、他の企業に伝えていく必要があると思います。

#### **(第4章「施策体系と事業・取組」基本施策③障害児への支援、⑤生まれる前から乳幼児期の一貫した支援の充実、⑥地域における子育て支援の充実、⑦ひとり親家庭の自立支援／配偶者等からの暴力(DV)への対応と未然防止)**

(松岡委員) 障害児の支援については、地域でどのように受け入れていくかということが大切だと思います。地域の中で温かいまなざしがないと、親とすると、「行き場所がない。だから預けたい。」という考えになってしまうと思います。地域の中でみんなで見守ることで、子ども自身が地域の中で育っていくということになると思います。

(森委員) こんにちは赤ちゃん訪問事業など地域で支援活動を行っている方々の待遇等の改善が必要なのではないかと思います。

(土谷部会長) こんにちは赤ちゃん訪問事業について、地域の民生委員の方が行っているのが横浜市の特徴だと思います。訪問を実施する側、訪問を受ける側双方の意見を聞きながら、利用のしやすさ、周知方法等を検証するのが大切だと思います。

#### **(第4章「施策体系と事業・取組」基本施策⑧児童虐待防止対策と社会的養護体制の充実、⑨ワーク・ライフ・バランスと子どもを大切にすまちづくりの推進)**

(柳井委員) 8時間労働の中でワーク・ライフ・バランスの推進を行おうとすると、定時帰宅の推奨のような発想で行き詰まってしまうこともあると思います。4時間労働の正社員の創出等、考え方を大胆にできればより良いと思います。また子どもの貧困について言えば、今、日本の貧困率がOECD諸国の中でもすごく高くなっているというデータを見たことがあります。クラスで6人に1人が貧困家庭というデータもある中で、そこにダイレクトにフォローできる子育て支援策があれば良いと思います。

(高田委員) 事業計画の中で、社会的養護の現状が多く記載されており、ありがたいと思います。加えて、施設側の願いでもありますので、児童相談所等の相談・支援体制の充実の中で、人員の拡充も記載していただければと思います。また対応が難しい高齢児童への対応や施設を退所した子どもたちの自立支援という部分の記載に意気込みを感じました。

(土谷部会長) 児童虐待防止に関して、CAPという暴力防止／人権教育プログラムをはじめとした、子どもにSOSを出す力をつけようとする取組みも大事ではないかと思います。子どもが保護されるばかりの対象ではなく、力をつけさせるという段階に入ってきたのではないかと思います。

それでは、以上をもちまして、本日予定していた議事についての審議を終了させていただきます。これまでの審議は、皆様の意見を踏まえまして、10月16日に開催される第3回横浜市子ども・子育て会議において報告し、さらに議論を進めていきます。

資料	資料1 横浜市子ども・子育て会議子育て部会 委員名簿 (P1) 資料2 横浜市子ども・子育て会議子育て部会 事務局名簿 (P3) 資料3 地域子ども・子育て支援事業に関する確保方策について (P5) 資料4 量の見込み・確保方策算出シート<暫定値> (案) (P7) 資料5 量の見込み・確保方策<暫定値> (案) 一覧 (子育て部会所掌事業) (P17) 資料6 - 1 「横浜市子ども・子育て支援事業計画」(仮称) 素案 (子育て部会所掌部分抜粋) (P19)
特記事項	第5回の子育て部会は後日、日程調整させていただきます。 本日の議事録は、各委員に確認していただいた後、ホームページで公開する予定です。